

テーマ

XBRLによる資本市場の透明化

適用分野

会計学（とりわけ、情報会計論、国際会計論、監査論）



研究名称

情報会計システム論

氏名所属

池田公司 教授
経営学部 経営学科

内容

●特徴

金融庁は、EDINET (Electronic Disclosure for Investors' NETwork)へのXBRLの導入を予定している。米国のSECは、既にEDGARシステムへのXBRLの導入を決定しており、SEC議長のクリストファー・コックス氏は、XBRLの導入によって監査の質が著しく改善されるであろうという期待を表明している。

●研究内容

日米両国とも、上場企業の財務報告は電子化されており、XBRLという技術が用いられている。ここに、XBRLとは、拡張可能な事業報告言語 (eXtensible Business Reporting Language)を意味している。もとより、XBRLは米国公認会計士のチャールズ・ホフマン氏の発案によるものであり、米国公認会計士協会によって開発された経緯がある。同協会はXBRL Internationalという国際組織を立ち上げ、わが国にもXBRL Japanという組織が設立されている。EU諸国にも、英国XBRL等の組織がある。

わが国では、政府のe-Japan構想に基づき、2005年7月20日に「XBRL仕様書2.1」がJIS規格として制定されている(JIS X 7206:2005)。図に示したように、XBRLによる情報のサプライチェーンは、企業を取り巻く総てのステークホルダーに役立つ。

XBRLによる情報のサプライチェーンの効用



(出所) XBRL Japan編著『Fact Book 9』2007年3月、4頁。

キーワード

拡張可能な事業報告言語(eXtensible Business Reporting Language; XBRL), 拡張された事業報告(Enhanced Business Reporting; EBR), 国際会計基準, 米国証券取引委員会(Securities and Exchange Commission, SEC)

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究